



おこだでませんように・・

校長 井口 修

私は小学校3, 4年生の時、とてもやんちゃだったので、ほぼ毎日先生に叱られていました。迷惑をたくさんかけたなあ、と恥ずかしい気持ちです。ごくごくたまに、私に関係のないことで友達が叱られていると、「叱られないって、こんなに気持ち楽なんだ。」と感じたことを今でも覚えています。だから、叱られる子の気持ちはよく分かります。

大人になった今、こどもがいけないことをした時は、しっかりと叱る（本気で指導する）人になりたいです。特に「命にかかわる時」と「誰かの心を深く傷つけた時」は心から真剣に話をしたいです。ウソについては、身を守るためについている子も多く、ウソをつかなくてはならない環境や習慣を何とかしたいです。

さて、「10ほめる」関係をこどもと築いてから「1叱る」ことを目指したいです。しかし、どうも最近叱る（注意する）ことが多くなっていて、少々落ち込んでいました。そうしたら、「おこだでませんように」という絵本が読みたくなったので、全校朝会でオンラインのテレビ読み聞かせをしました。

この絵本は反響がとても大きかったです。「ぼくもけっこうしかられるよ。」「私、つついやりすぎちゃう。」「〇〇くん、本当はほめられたいのかなあ。」「校長先生、昔叱られたんだね。」「この絵本、もう一回読んでもいいですか。」と廊下や校庭でたくさん話しかけられました。教職員からも「教室で聴きながらたくさんの子がうなずいていましたよ。」「私も時々読み返しています。」と声を掛けられました。このおはなしの力とやさしさを感じます。

こどもにも大人にも日々いろいろなことが起こります。ゆれうごく感情も湧いてきます。叱る（指導する）べき時は叱り（指導し）つつ、深いところにある子どもの願い（「自分も大切にされたい」「まるごと受けとめてほしい」「仲良くしたい」「ほめられたい」「認めてほしい」「成長したい」等）も感じ取れる感性を大切にしていきたいです。

7月の生活目標「物を大切にしよう」

江戸の町人は物を大切にし、徹底的に使い切ったと言われていました。着物であれば、仕立て直しをして徹底的に着回し、使い回し、使い切る、究極の循環型社会でした。一方現代は、安価な商品や使い捨ての物が増え、何でもすぐ買い替えることができるようになりました。今こそ、江戸の町から学ばなければならないことがあります。

私の両親は、本当に物を大切にする人でした。どんな物も直して使い、物が必要になっても、どこからか譲ってもらえないか、自分で作れないかを考えていました。だからこそ、新しい物を買ったときには、「ずっと長く大切にしよう」と思え、それは今でも変わりません。

学校では、「物を大切にすることは、人の心を大切にすることでもある」ことを伝えていきます。ぜひご家庭でも、物を大切にできているか、お子様と話し合っただけければと思います。

生活指導主任

【キャリアパスポートについて】

1学期の振り返りカードにお子さんが記入をし、持ち帰ります。内容をご確認の上、「おうちの人などから」の欄にコメントを記入していただき、再度お子さんに持たせてください。7月4日(木)頃に持ち帰りますので、7月12日(金)までに提出をお願いします。

【着衣泳について】

7月17日(水)に、5・6年生を対象として着衣泳を実施します。夏休みに入る前に、万が一衣服を着たまま水に入ったらどうなるか、そのような状態になったときにどう対処すべきかを学習します。持ち物など詳細については、別紙にて配付しますので、ご確認ください。